

評価基準の例（案）

1. 利用実績の評価基準の例

(1) 評価基準の例

視 点	評価基準の例
交通手段がない人の活動機会の確保に貢献したか	<ul style="list-style-type: none"> 交通弱者（運転免許を持たない、自家用車を持たない人）のうち、バスを利用している人の割合 沿線人口のうち、バス運行により外出が可能になった人口の割合 交通弱者のうち、バス運行前より外出機会が増加した人の割合
傾斜の急な地区に対する貢献	<ul style="list-style-type: none"> 勾配が急な地域（傾斜度 10%以上）に住んでいる地区の人口のうち、バスを利用している人口の割合 (または、勾配が急な地域における年間バス利用者数÷人口)
公共交通の維持に対する地域の熱意・協力度合い	<ul style="list-style-type: none"> 沿道人口のうち、年に1回以上バスを利用した人の割合 コミュニティバスに関わる地元自治会集会への参加率（参加世帯数÷対象世帯数） コミュニティバスに関わるアンケートの回収率 アンケートにおいて「すでに利用している方」と「利用する可能性のある方（今後利用意向のある方）」の割合
バス利用率	<ul style="list-style-type: none"> 利用率＝年間の利用者数÷沿線人口 通勤・通学者のうち、バスを利用している人の割合 ピーク時間帯1便あたりの利用者数
地域の特性を考慮した市民の負担（生駒市の補助）	<ul style="list-style-type: none"> 利用者1人当たりの市民の負担（市の補助金額） 路線長1km当たりの市民の負担（市の補助金額） 各路線に対する市民の負担額の大きさ（金額そのもの） 運行経費÷人口密度

(2) 評価の方法の例

①期間の設定

- ・単年ではなく連続した2年間で収支率が設定した基準値を下回った場合に再検討する。

②集約する単位の設定

- ・路線毎ではなく、路線全体（生駒市全体又はブロック別）での収支率を対象とする。

2. 地区選定にあたっての評価基準の例

視 点	評価基準の例
交通手段がなく困っている人が多い地区	<ul style="list-style-type: none"> ・交通弱者の人数が多い地区 ・地区の人口に占める外出できない高齢者の多い地区 ・交通弱者のみで構成される世帯の割合が高い地区 ・高齢者のみ世帯・高齢単身世帯の割合が高い地区 ・地区の人口に対するタクシー利用者数の割合が高い地区
地形的な特性からバスの必要性が高い地区	<ul style="list-style-type: none"> ・勾配がたとえば10%以上の場所に住む人口の割合が高い地区 ・地区の中心から最寄駅・最寄バス停までの距離が長い地区 ・沿線地区の人口重心と駅との距離 ・沿線地区の人口重心と駅との勾配 ・勾配の大きな地区に住む高齢者の人数が高い地区 ・勾配の大きな地区に住む5歳以下の子供の人数が多い地区
公共交通の維持に対する地域の熱意が強い地区	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス導入に関する自治会集会の開催数が多い地区 ・コミュニティバス導入に関する要望者数（賛同者数）が多い地区
多くの利用者が見込める地区	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤者・通学者（高校生以下の人口）の人数が多い地区 ・世帯の誰かに送迎してもらって移動している人数が多い地区 ・世帯外の誰かに送迎してもらって移動している人数が多い地区